



あおくずれ
青崩峠の治山工事現場



かみむら
中央構造線の走る谷(上村)

■ 中央構造線と災害

中央構造線は、諏訪湖の南東杖突峠から南下し青崩峠を経て、やがて西に向い九州阿蘇に至る断層帯。数多くの断層が平行して走っている。激しい断層運動によって、かこう岩などの貫入岩石、海底火山の堆積物が変成作用を受け、さらに雨水などによる風化作用を受けているため、この地帯の岩石類はもろく崩れ易い。斑状かこう岩、鹿塩片麻岩(圧砕岩)、黒色片岩、緑色片岩などが主なものである。伊那谷は、年降水量約千八百ミリメートルから二千ミリメートルと雨が多いことも手伝って、幾多の災害を経験している。

昭和七年「農村匡救事業」により上久堅(現在飯田市)で治山工事に着手して以来、農林省山林局、長野営林局と治山事業が受け継がれ、工事は休みなく続けられてきている。民有地についても小波中川の重要地域では「民有林直轄治山事業」として営林局が実施している。法切工、骨工(PNC板積工、山腹コンクリート積工、同ブロック積工、粗朶積工)、緑化工(粗朶筋工、植生袋筋工、植生盤筋工、むしろ張工)など工種、工法が多彩であるのも、この断層地帯の山づくりの特色である。